

工事費積算参考資料

本資料は、入札参加者の適切な見積りに資するため、発注者が用いた積算資料を参考として掲示するものであり、契約書第1条の設計図書ではありません。

従いまして、請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件及び地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法及び安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について、設計図書に特別な定めがある場合を除き受注者の責任において定めるものとします。

なお、本資料の有効期限は、この工事の入札日までとします。

施行番号	
工事番号	第 507 号
工事名	井田川・能褒野処理分区下水管渠布設工事（その2）

単価適用日	令和6年6月1日		
積算基準適用版	積算基準（共通編、道路編、下水道編）令和5年7月版		
井田川・能褒野処理分区下水管渠布設工事（その2）			
一般材料地区	C00：鈴鹿		
適用単価地区	生コン	C02：鈴鹿／小型4 t	
	石材	C02：鈴鹿／小型2 t～4 t	
諸 経 費 情 報	全体 諸経費情報参照		

井田川・能褒野処理分区下水管渠布設工事（その2）		単独	
一般材料地区		C00：鈴鹿	
適用単価地区	生コン	C02：鈴鹿／小型4 t	
	石材	C02：鈴鹿／小型2 t～4 t	
諸 経 費 情 報	全体 諸経費情報参照		

全体 諸 経 費 情 報	-----	I C T補正	しない	
		週休2日制の補正	4週8休以上	
	共通仮設費	主たる工種	31：下水道工事(2)	
		施工地域補正	一般交通影響有り(2)-2	
		対象支給品費	-	
		無償貸与機械等評価額	-	
	現場環境改善費	計上の有無	しない	
		市街地補正	-	
	現場管理費	施工地域補正	一般交通影響有り(2)-2	
		緊急工事補正	しない	
		砂防・地滑り工事補正	しない	
		対象支給品費	-	
		無償貸与機械等評価額	-	
	一般管理費等	財団法人等の補正	しない	
		前払金割合による補正	35%を超えるものもしくは対象外	
		契約保証に係る補正	発注者が金銭的保証を必要とする場合	
	全体 諸経費情報参照			

(直接工事費計上分)

別添の「設計内訳書」、「1次単価表」等によります。

※「設計内訳書」、「1次単価表」等に記載している機械の機種など（仕様書に明示している機種を除く）は、当該機種を指定するものではなく、発注者が積算上用いた条件を明示しています。

その他

マンホール蓋、マンホール部材、副管部材、簡易推進工等を見積りにより計上しています。

(共通仮設費計上分)

※「設計内訳書」、「1次単価表」等に記載している機械の機種など（仕様書に明示している機種を除く）は、当該機種を指定するものではなく、発注者が積算上用いた条件を明示しています。

1. 運搬費

運搬費の計上	(あり) ・ なし
別添の「設計内訳書」、「1次単価表」等によります。	

2. 準備費

準備費の計上	あり ・ (なし)

3. 事業損失防止施設費

事業損失防止施設費の計上	(あり) ・ なし
別添の「設計内訳書」、「1次単価表」等によります。	

4. 安全費

安全費の計上	あり ・ (なし)

5. 役務費

役務費の計上	あり ・ (なし)

6. 技術管理費

技術管理費の計上	(あり) ・ なし
別添の「設計内訳書」、「1次単価表」等によります。	

井田川・能褒野処理分区下水管渠布設工事(その2)

営繕費の計上	あり ・ (なし)

(諸経費全般)

1. 支給品費の取り扱い

支給品	あり ・ (なし)

2. 処分費の取り扱い

処分費の控除	あり ・ (なし)
その他確認事項等	あり ・ なし

3. スクラップ評価額の取り扱い

スクラップ評価額	あり ・ (なし)



業務委託名	井田川・能登野ほか3処理分区地質調査業務委託
処理分区名	井田川・能登野処理分区
業務委託箇所	亀山市川崎町ほか8地区(川崎町)
名称	平面図1(井田川・能登野処理分区その1)
縮尺	S=1:2,000
図面番号	5

■設計用透水係数の設定

Bor No. 3で実施された現場透水試験結果は信頼性に欠けるため、土の粒度試験結果(粒径加積曲線)のD20を用いて、クレーガーの式により設計用透水係数を設定する。

土質名称	試料番号	深度	D20 (mm)	透水係数 (cm/sec)	現場透水試験結果
シルト混じり砂礫	3P-3	GL-3.15m~3.45m	0.47	6.2E-02	K=3.35E-2cm/sec

(注) 透水係数はCreagerの透水係数一覧表から誘導された式 $K=0.359 \times D20^{2.327}$ を用いて算出した。

設計用透水係数 $K = 6.2E-2\text{cm/sec}$

補足事項：下記土質柱状図の記事欄には「全体に泥水の逸水、孔壁の崩壊がある」と記載されている。
 また、現場透水試験(非正常法・回復法)における試験孔内水位の回復速度が試験の成立条件を満足できないほど急速度であった。
 (このような透水性の大きい地盤では非正常法ではなく、定常法を採用すべきである。)
 以上の現象から、当該砂礫層の透水係数は $K=1E-1\text{cm/sec}$ を越える極大値となっている可能性が極めて高い。

土質柱状図 Bor NO, 3

